

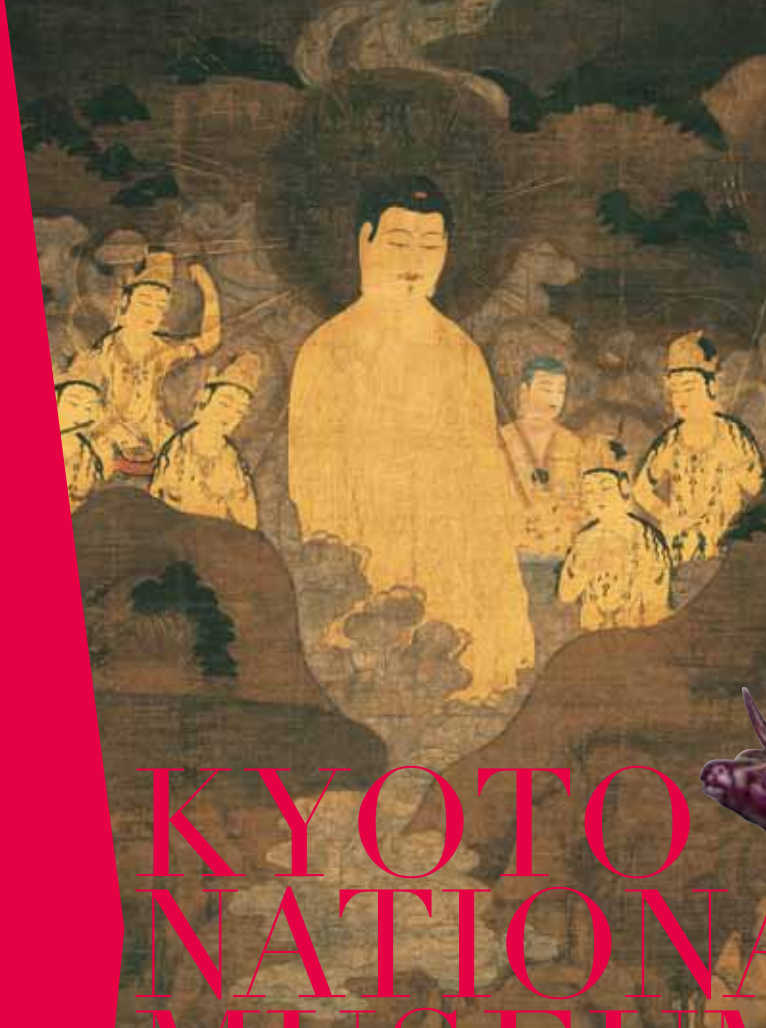
京都国立博物館

だより

二〇二一年  
一・二・三月号

# KYOTO NATIONAL MUSEUM

2021 January to March vol. 209



# 丑づくし

— 干支を愛でる —

12月19日(土)～令和3年1月31日(日)  
【平成知新館1F-2】

恒例の干支・丑にちなむ新春の特集展示です。動物の家畜化は約一万年前から始まり、牛は犬・山羊・羊・豚に次いで共に暮らす存在になりました。

古代東アジアの中国漢代では、富の象徴や十二支の一つとして登場します。日本では古墳時代に伝来し、平安時代には神仏とも結びついて信仰が拡がりました。中世以降の禅宗では、人物との組合せで悟りに至る過程を表す十牛図などで仏道を伝える役割も果たしてゆきます。近世には、生命力を表現する力強い作品も現れました。

このような多様な牛の姿を愛らしい描写・造形から躍動感あふれる作品でご紹介します。さまざまな「牛」たちと新春の一時を過ごして頂ければ幸いです。

(古谷 毅)



交趾釉牛置物(紫) 永樂得全作  
鴻池善右衛門氏寄贈 京都国立博物館

仏教美術研究上野記念財団設立五十周年記念 特別企画

## 新聞人のまなざし

— 上野有竹と日中書画の名品 —

令和3年2月2日(火)～3月7日(日)

【平成知新館2F】

## 文化財修理の最先端

12月19日(土)～令和3年1月31日(日)  
【平成知新館2F、1F-1・3-5】

京都国立博物館の敷地内に併設されている文化財保存

修理所は、指定文化財を安全に修理することを目的とし、昭和五十五年(一九八〇)七月に設置されました。公営修復施設としては日本で初めてのものであり、令和二年(二〇二〇)には開所四十周年を迎えました。これを記念し、近年修復された文化財のなかでも特に注目される作品を、以下のような構成で展示いたします。

- I 表具の価値—文化財としての表装—
- II 修理がもたらした奇跡—修復で得られた発見—
- III 最新の修復成果—ベストな修理を目指して—
- IV 彫刻の修理
- V 修理 いまむかし—過去から未来へ—

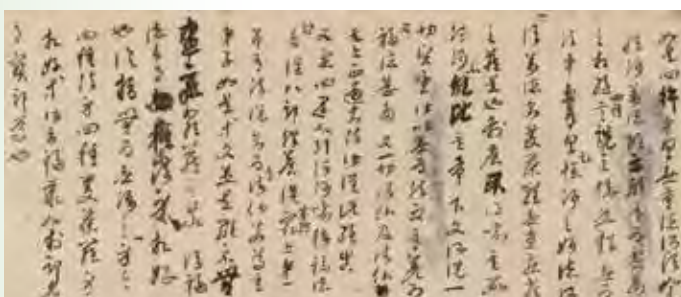
日本の文化財は大半が脆弱な有機物を素材としており、約一〇〇年に一度は定期的な修理を行わなければなりません。異なる素材を複合させながら発達した日本の修復技術は、古い作品を大切にし、後世へ伝えようとする人々の心と日本の自然が生み出した、人文遺産そのものです。

この特別企画では、世代を超えて受け継がれてきた文化財を、文化財修理という切り口からご紹介いたします。

(大原嘉豊)



国宝 蓮池水禽図 俵屋宗達筆  
京都国立博物館



国宝 金剛般若経開題残巻(部分) 空海筆 京都国立博物館

平成知新館  
名品ギャラリー

3F-1

【日本と東洋のやきもの】

12月19日(土)～令和3年2月28日(日)

\*3月2日～7日は閉室

### ●京博ウェブサイトを「おうちで楽しむ京博」

おうちでお楽しみいただける京博のウェブコンテンツをまとめてご紹介しています。

京博PR大使・トラリんの「虎ブログ」や「トラりんチャンネル展

大阪朝日新聞(現朝日新聞)の創業者の一人である上野理一氏(一八四八〜一九一九)は「有竹」の号をもち、日本と中国の美術品収集で名をなせた稀代のコレクターでもありました。昭和四十五年(一九七〇)にご子息で朝日新聞社の社長をつとめた精一氏の尽力により設立された仏教美術研究上野記念財団が設立五十周年を迎えたことを記念して、本展では有竹ゆかりの絵画や書跡作品およそ五十件を展示いたします。

仏教美術研究上野記念財団は、上野精一氏が父・有竹から引き継いだ「山越阿弥陀図」(国宝)を国へ売却し、その全金額を原資として設立されました。仏教美術の研究調査や若手研究者への助成を事業の柱とし、今日にいたるまで日本の美術史研究の発展に寄与しています。

本展では、財団設立の契機となった「山越阿弥陀図」をはじめ有竹が収集の初期に関心を寄せた仏教絵画はもちろん、王羲之「十七帖」(宋拓)や惲寿平筆「花陰夕陽図」(重要文化財)など上野コレクションの中核をなす中国の絵画や書跡、典籍を展観します。さらには岡田半江筆「住吉真景図巻」(重要美術品)など、現在では各所に分散した有竹旧蔵の日本美術の名品もそろいます。

上野コレクションの展示では、平成二十三年(二〇一一)に当館で開催した特別展覧会「上野コレクション寄贈五十周年記念 筆墨精神―中国書画の世界―」からおおよそ十年ぶりの大規模なものとなります。日本美術の源流を見据えてコレクションを形成した上野有竹のまなざしと、精一氏が道筋をつけた財団の活動について、日本と中国美術の名品をとおしてご理解を深めていただければ幸いです。

(呉 孟晋)



国宝 山越阿弥陀図 京都国立博物館



十七帖(宋拓) 王羲之  
上野有竹収集・上野精一氏寄贈 京都国立博物館



重要文化財 花陰夕陽図 惲寿平筆 上野有竹収集・上野精一氏寄贈 京都国立博物館



重要文化財 古今和歌集 卷下(寂恵本)

「観覧会」のほか、館蔵品をモチーフにしたオリジナルぬりえも! おうちでも京博をお楽しみください。  
[https://www.kyohaku.go.jp/jp/oshirase/post\\_200515.html](https://www.kyohaku.go.jp/jp/oshirase/post_200515.html)

●ジュニア版音声ガイドのご紹介  
名品ギャラリーでは有料で四言語の音声ガイドをお楽しみいただけますが、この冬からジュニア版が登場します。

京博を見守ってきた庭園のメタセコイアの「メタじい」と、博物館にはじめて来た「わかばちゃん」が展示作品について楽しくお話します。ぜひご利用ください。



©アコースティガイド・ジャパン

ジュニア版音声ガイドキャラクター・メタじいとわかばちゃん

### 3F-2 考古

【令和二年度 考古資料相互活用促進事業 九州と近畿の弥生・古墳時代】

―弥生土器の成立と埴輪・須恵器―

12月19日(土)〜令和3年2月28日(日)

\*3月2日〜7日は閉室

京都国立博物館では令和二年度に福岡県と大分県そして大阪府高槻市との間で考古遺物を相互に貸し借りする事業をおこなっています。(写真1)は福岡県糸島市三雲遺跡で出土した弥生中期の広口の壺です。赤色に塗られた端正な形は北部九州を代表する須玖式土器です。その影響は福岡県を越えて広がっています。また(写真2)は大分市北ノ後遺跡から出土した弥生時代後期の壺(安国寺式)です。東九州の弥生時代後期を代表する装飾の多い土器です。その他、大阪府高槻市からお借りした弥生土器や大型の人物埴輪(写真3)、動物埴輪を展示いたします。弥生土器や須恵器・埴輪など古代人のつくった多様なかたちをお楽しみください。(宮川禎一)



(写真3)

(写真2)

(写真1)

右から(写真1)弥生土器 壺 糸島市三雲遺跡 九州歴史資料館(写真2)弥生土器 壺 大分市北ノ後遺跡 大分県立理蔵文化財センター(写真3)埴輪 男子(力土) 高槻市郡家新町今城塚古墳、高槻市立今城塚古代館

### 2F

【特別企画 文化財修理の最先端】

12月19日(土)〜令和3年1月31日(日)

―特別企画 新聞人のまなざし―

―上野有竹と日中書画の名品―

令和3年2月2日(火)〜3月7日(日)

### 1F-1 彫刻

凝然国師没後七〇〇年【特別展】

# 鑑真和上と 戒律のあゆみ

## 鑑真

中国から地位を棄てて日本へ  
すべてはこの高僧からはじまりました

令和3年3月27日(土)～5月16日(日)

【主な展示替】前期：3月27日(土)～4月18日(日)

後期：4月20日(火)～5月16日(日)

※会期中、一部の作品は右記以外にも展示替を行います。

【平成知新館】

鑑真(がんじん) (六八八～七六三)は、中国・唐時代の高僧で、律の大家として尊敬を集めました。しかし、日本での戒律の整備を目指していた聖武天皇の意を受けた日本僧・栄叡(ようがい)、普照(ふしょう)より懇請(こんきん)され、その地位をなげうち、五度の日本への渡航失敗と失明をものともせず、天平勝宝五年(七五三)、六度目にしてようやく日本の地を踏みました。その後、唐招提寺を拠点に、中国正統の律の教えを日本に定着させ、日本仏教の質を飛躍的に高めました。

律とは、僧侶の集団生活を行う上で生じた問題点を弟子が釈迦に聞いたものが、各部派で整理されていったものです。仏教が中国に伝わった際にも、律は僧侶のあるべき姿を示すものとして重視されました。戒律を学ぶことは、僧侶とは何か、仏教とは何かを問い直すことでもあり、日本が社会変動を迎えるたびに、幾多の名僧が戒律に注目し、仏教の革新運動を起こしました。

特に鎌倉時代には、唐招提寺の覚盛(かくせい) (一一九四～一二四九)、西大寺の叡尊(えいそん) (一二〇一～一二九〇)、泉涌寺の俊苒(しゅんぜん) (一一六六～一二二七)をはじめ、没後七〇〇年を迎える凝然(ぎょうねん) (一二四〇～一三二二)などの英傑が登場し、戒律の精神にもとづき社会福祉事業などを行い広範な支持を集めました。また、近世においても、明忍(めいにん) (一五七六～一六一〇)や慈雲(じうん) (一七一八～一八〇五)などによって重要な律の復興運動が展開されました。

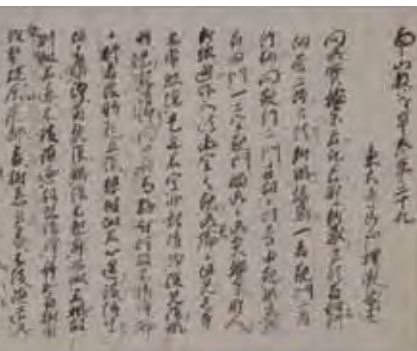
本展では、日本仏教の恩人と言っべき鑑真の遺徳を偲ぶとともに、戒律のおしえが日本でたどったあゆみを、以下の構成でご紹介



国宝 鑑真和上坐像 奈良・唐招提寺 (通期展示)



寺 (通期展示、巻替あり(この場面は3月27日～4月18日展示))



巻第二十一紙背(部分) 凝然筆 京都国立博物館 (通期展示)

## 凝然

現代でも通用する仏教史概説『八宗綱要』の著者 知る人ぞ知る大学者



国宝 法然上人絵伝(部分) 巻十 京都・知恩院 (後期展示)  
後鳥羽院への授戒をおこなう法然

【特別企画】文化財修理の最先端

12月19日(土)～令和3年1月31日(日)

【日本の彫刻】

12月19日(土)～令和3年3月7日(日)

1F・2 特別展示室

【新春特集展示】 丑づくし

— 干支を愛でる —

12月19日(土)～令和3年1月31日(日)

【特集展示】 雛まつりと人形

令和3年2月9日(火)～3月7日(日)

1F・3・4

【特別企画】文化財修理の最先端

12月19日(土)～令和3年1月31日(日)

【特集展示】 国宝「日本書紀」と

東アジアの古典籍

令和3年2月4日(木)～2月28日(日)

\* 3月2日～7日は閉室

1F・5

【特別企画】文化財修理の最先端

12月19日(土)～令和3年1月31日(日)

【小品を愛でる】

令和3年2月2日(火)～2月28日(日)

\* 3月2日～7日は閉室

1F・6 漆工

【漆器を守り伝える—修復の成果—】

12月19日(土)～令和3年1月31日(日)

【近世グローカール蒔絵】

令和3年2月2日(火)～2月28日(日)

\* 3月2日～7日は閉室

多くの弟子を持った大社会福祉事業家  
諡号は興正菩薩



介します。

- 第一章 戒律のふるさと—南山大師道宣に至るみちすじ—
- 第二章 鑑真和上来日—鑑真の生涯と唐招提寺の創建—
- 第三章 日本における戒律思想の転換点—最澄と空海—
- 第四章 日本における戒律運動の最盛期—鎌倉新仏教と社会運動—
- 第五章 近世における律の復興

また、国宝「鑑真和上坐像」（奈良・唐招提寺）については、寺外での公開は十二年ぶり、京都国立博物館では昭和五十一年（一九七六）の「日本国宝展」以来、四十五年ぶりに展示いたします。天平彫刻のなかでも群を抜いた写実表現で、まるで生けるがごとくあらわされた鑑真和上の姿を、この機会にぜひご覧ください。

鑑真がもたらした仏舍利を奉安するために制作されました

（大原嘉豊）



国宝 金銅舍利容器（金亀舍利塔） 奈良・唐招提寺（通期展示）

# 俊苒

しゅんじょう

本場・中国で学ぶため、33歳にして南宋へ渡った学究の徒



重要文化財 俊苒律師像 京都・泉涌寺（通期展示）

# 覚盛

かくじょう

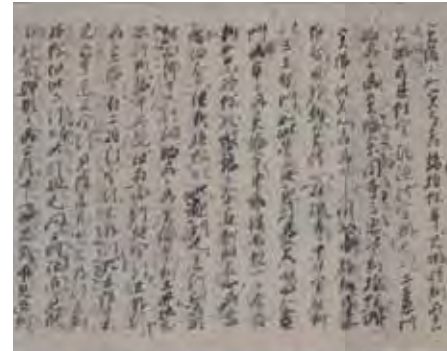
「鑑真の再来」と称された、蚊も殺さない人格者



大悲菩薩（覚盛）坐像 成慶作 奈良・唐招提寺（通期展示）



狼溝浦で難破する鑑真一行 重要文化財 東征伝絵巻 巻二（部分） 奈良・唐招提寺



重要文化財 『南山教義章』 卷第二十九（『華嚴孔目章発悟記』）

# 明忍

みょうにん

近世の戒律復興はこの人から 中国に渡ろうとして夢果たせず、道中の対馬で病没



明忍律師像 京都・西明寺（通期展示）

# 慈雲

じうん

釈迦の教えそのものを重視し、サンスクリットを独学で学んだ本格派



慈雲巖上坐禅像 原在中筆 大阪・高貴寺（前期展示）

# 叡尊

えいそん



国宝 興正菩薩（叡尊）坐像 善春作 奈良・西大寺（後期展示）

# 国宝「日本書紀」と東アジアの古典籍

令和3年2月4日(木)～2月28日(日)

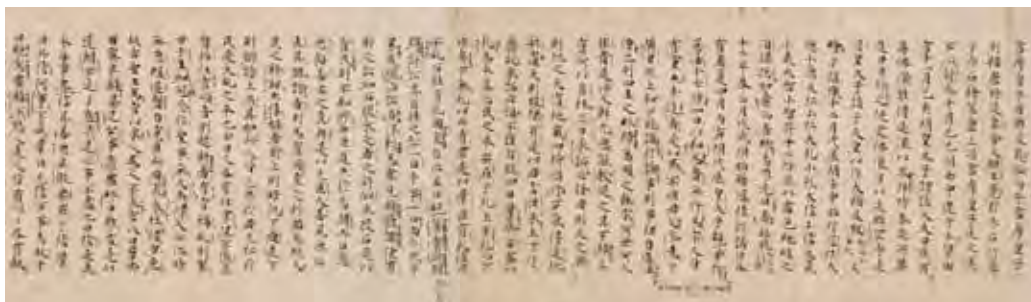
〔平成知新館1F-3・4〕

「古典籍」とは、古い時代に書写、あるいは印刷された和書・漢籍・仏典などの書籍をさします。日本には、中国と朝鮮半島を含めた東アジアの良質な古典籍が数多く伝えられました。

京都国立博物館は、これらの屈指の名品を収蔵しており、なかでも、国宝に指定される二つの「日本書紀」はよく知られています。一つは、平安時代（十世紀）の書写にかかる巻第二十二および巻第二十四、いま一つは、鎌倉時代（十三世紀）に下部兼方が書写した神代巻上下で、それぞれ旧蔵者にちなみ「岩崎本」「吉田本」と称されます。

周知のように、『日本書紀』は、わが国における最初の勅撰国史として、養老四年（七二〇）五月二十一日に完成、奏上されました。令和二年（二〇二〇）は、成立から一三〇〇年という節目の年にあたることを記念して、二つの国宝「日本書紀」を中心に、東アジアの優れた古典籍を展示いたします。

（羽田 聡）



国宝 日本書紀（岩崎本）（部分） 京都国立博物館



国宝 日本書紀（吉田本）（部分） 京都国立博物館

# 雛まつりと人形

令和3年2月9日(火)～3月7日(日)

〔平成知新館1F-2〕



御殿雛飾り 木村進一氏寄贈 京都国立博物館

人形は、その災厄から人々を守る力があるとも考えられていたのです。

そこで、今年の「雛まつりと人形」では、恒例となっている関西風の御殿雛飾りに至る雛人形の歴史と、各種の京人形の展示に加え、江戸時代の人々が抱瘡が軽くすむことを願って飾った狸々人形を紹介します。抱瘡とは天然痘のことで、予防接種が普及するまでは、死に至ることも珍しくない重篤な感染症でした。全身にできものが生じ、治癒したとしてもしばしばその痕があばたとなって残るため、たいへん恐れられていたのです。抱瘡を引き起こす抱瘡神は赤いものを好むとされ、狸々は抱瘡神と同一視されていました。「狸々」は能の演目としても知られる、汲めども尽きぬ酒壺を人間に与える全身赤づくめの精霊です。このたびの展示では、狸々人形の力を借りて、感染症の収束を祈りたいと思います。

（山川 暁）



衣裳人形 狸々 京都国立博物館

## 特別展「聖地をたずねて—西国三十三所の信仰と至宝—」によせて

## 四度目の視点

龍谷ミュージアム副館長 石川 知彦

想いもよらぬコロナ禍の中、予定より三ヶ月遅れとはいえ、西国三十三所展が無事に開催できたことは、主催者・観覧者ともに大なる喜びであったろう。西国観音霊場三十三札所寺院をテーマとする展覧会は、実は今回が四度目で、最初に大阪で開催された展覧会の担当という理由で、筆者がこの欄の執筆者に選ばれたようだ。

その一回目は一九八七年大阪市立美術館にて、花山法皇中興一千年記念としての展覧、二回目は一九九五年、東京池袋にあった東武美術館と京都文化博物館との巡回で開催された展覧会、三回目が二〇〇八年奈良国立博物館と名古屋市博物館にて、花山法皇一千年遠忌を記念しての開催で、四回目の今回が、徳道上人による草創一三〇〇年を記念しての開催であった。同一テーマの展覧会が四回あると、それらを比較検討、分析したがるのは学芸員の悪い癖、三十三所の至宝や巡礼の魅力を語ってほしいのだからと想像しつつも、ここは筆者の身勝手にお付き合ひ頂けたらと思う。

四回の展覧会をとおして、まず目に止まるのは、毎回新発見の文化財が複数加わり、何度開催しても観覧者を飽きさせないことである。例えば二回目では、清水寺の参詣曼荼羅や播磨清水寺の大字法華経（新指定重文）、華嚴寺の刺繍本西国三十三所観音像などが新たに出品された。三回目ではさらに、圓教寺のかつての札所本尊である如意輪観音坐像、そして開山の性空上人坐像をはじめ、施福寺からは空海所縁の「船先観音」と伝承される千手観音立像と千手陀羅尼経、清水寺奥院本尊の千手観音坐像（新指定重文）、善峯寺の法華経安樂行品などが初出品であった。そして今回

は六角堂頂法寺の如意輪観音坐像二軀をはじめ、粉河寺本堂の「裏観音」千手観音立像、宝厳寺の聖観音立像、六波羅蜜寺の陸信忠筆十王図などが新規出品であった。また番外札所、元慶寺の梵天帝釈天立像は、修復を終えて本来の素晴らしい姿を見せてくれた。三十三所寺院の宝物の懐の深さを改めて感じさせられる。

次に注目すべきは、章立てや図録掲載の論文選定といった全体構成に関わる点である。二回目では、観音信仰研究の大家・故速水侑先生と、京都文博の学芸員・大塚活美氏による歴史系の各論二本が掲載されたのが特徴であろう。また三回目では、密教学の権威・故頼富本宏先生の総論に加え、「第四章 法華経」と「第六章 浄土」のテーマが立てられ、観音信仰をアジア全般から捉えようという新たな視点が付加された。そして今回は、徳道による地獄巡りの説話にちなみ、補陀落浄土の対極にある「第二章 地獄のすがた」が設定された。また「第四章 聖地へのいざない」では、各札所の参詣曼荼羅が、伽藍の再興を促す古文書とともに展示されたのが新しい試みといえ、これは図録冒頭の総論「中世の文字資料からみた西国三十三所」とともに、主担者である羽田聡氏の本展覧会にかける思い入れが結実しているといえよう。

筆者が第一回目の展覧会を担当したのは、入社三年目。当時主任学芸員であった故阪井卓さんのもとで、若造が好きなようにさせて頂いた。これ以降、三十三所の札所寺院の皆さんから頂戴したご厚情は計り知れない。何度展覧会を開催しても色褪せず、次から次へと新発見の宝物が見出され、様々な新視点を我々に提供し続けてくれる三十三所寺院。さて次はいつ、どんな展覧会になるのか、今から楽しみである。

## ミュージアムパートナー一覧

※令和2年12月末現在  
京都国立博物館の賛助会員制度です。当館の活動について幅広くご支援いただいています。

三州ペイント株式会社  
有限会社竹内美術店/土屋和之  
株式会社 SOEMEN ホールディングス  
株式会社 俄 / NISHIDA株式会社  
彌樂自動車株式会社  
学校法人 二本松学院

## キャンパスメンバーズ一覧

※令和2年12月末現在

会員である大学や専修学校の学生および職員の皆様は、当館名品ギャラリーを無料で観覧いただける機会などさまざまな特典を提供しています。詳細はウェブサイトをご確認ください。

学校法人 瓜生山学園  
国立大学法人 大阪大学  
大阪大谷大学/大谷大学  
大手前大学/学校法人 関西大学  
学校法人 関西学院/京都大学  
学校法人 京都外国語大学  
国立大学法人 京都教育大学  
京都工芸繊維大学  
学校法人 京都産業大学  
学校法人 京都女子学園  
京都市立芸術大学/京都精華大学  
京都橘大学/京都府立大学  
近畿大学/嵯峨美術大学  
国立大学法人 滋賀大学  
四天王寺大学/就実大学  
成安造形大学/帝塚山大学  
学校法人 同志社/奈良大学  
奈良女子大学  
奈良先端科学技術大学院大学  
学校法人 二本松学院/花園大学  
佛教大学/学校法人 立命館  
龍谷大学

新型コロナウイルス感染症の感染予防、拡大防止のため、展覧会やイベントの中止や延期、会期や展示期間の変更などを行う場合がありますので、最新情報については、当館ウェブサイト等をご確認くださいませようお願いたします。

## 【ご来館くださる皆様へ】

当館では、新型コロナウイルスの感染拡大予防のための取り組みを行っております。安心して博物館をお楽しみいただける環境維持のため、マスクの着用、検温など、皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 土曜講座

- 1月16日「丑づくし—牛と日本人—」  
京都国立博物館研究員 古谷 毅
- 1月23日「日本の文化財修理 120年」  
京都国立博物館研究員 森 道彦
- 1月30日 対談「漆器の修理ってどんな？」  
漆芸家 北村 繁氏、京都国立博物館教育室長 永島 明子
- 2月6日「上野家の贈り物—上野コレクションと上野記念財団—」  
京都国立博物館名誉職員 赤尾 栄慶氏
- 2月13日「九州と近畿の弥生・古墳時代—弥生土器の成立と埴輪・須恵器—」  
京都国立博物館研究員 古谷 毅
- 2月20日「上野コレクションの形成と中国絵画」  
京都国立博物館調査・国際連携室長 呉 孟晋
- 2月28日「2つの国宝「日本書紀」」  
京都国立博物館美術室長兼列品管理室長 羽田 聡

※平成知新館 講堂にて、13時30分～15時に開催。定員100名、聴講無料(ただし当日の観覧券等が必要)。  
※当日12時より、平成知新館1階グランドロビーにて整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。整理券配布の待ち列が長くなり、適切な間隔が保てないと判断した場合には、配布の開始を早めさせていただきます。

## イベント

### 《新春大念佛狂言》

日時：2021年1月10日(日) 11時～、14時～ \*各回約60分  
場所：平成知新館 講堂

### 《芸舞妓 春の舞》

日時：2021年1月11日(月・祝) 11時～、13時～ \*各回約30分  
場所：平成知新館 講堂

【参加方法】上記のいずれも、当日10時より、平成知新館1階グランドロビーにて各回の整理券を配布し、定員になり次第、配布を終了します。定員100名(予定)、無料(ただし、当日の観覧券等が必要)。

### 《京都・らくご博物館【冬】～早春寄席～ vol.58》

日時：2021年2月26日(金) 18時30分開演(18時開場)  
会場：平成知新館 講堂  
出演：桂米輝 桂吉の丞 桂団朝 <中入> 桂よね吉 桂塩鯛  
入場料：3,200円(キャンパスメンバーズは学生証提示により2,600円)  
※全席指定、名品ギャラリー無料観覧券付

※チケットご希望の方はお電話、またはウェブサイトよりお申し込みください。  
申し込み先：お電話/博物館事業推進係075-531-7504(月～金の10～12時・13～17時に受付  
\*祝日は除く)ウェブサイト/https://www.kyohaku.go.jp らくご博物館【冬】申し込み画面

### 《特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」記念講演会》

「鑑真和上の教え」西山明彦 師(律宗管長、唐招提寺八十八世長老)  
日時：3月27日(土) 13時30分～15時(13時開場)  
会場：平成知新館 講堂

※平成知新館 講堂にて13時30分～15時に開催。定員100名、聴講無料(ただし講演会当日の特別観覧券が必要)。参加方法は、当館ウェブサイト、または展覧会公式サイトをご覧ください。

## ◆部分開館および庭園のみ開館の予定◆

特別展の前後を含めた期間は、展示作業等のため、名品ギャラリーを休止しております。ご来館の皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

名品ギャラリー部分開館：2021年3月2日(火)～3月7日(日)  
\*2F、1F-1・2(3F 1F-3～6は閉室)  
庭園のみ開館期間：2021年3月9日(火)～3月25日(休)

## ご利用案内

【開館時間】<12月19日～2021年3月7日>

9:30～17:00

<2021年3月27日～5月16日>

「鑑真和上と戒律のあゆみ」展の開催時間は、当館ウェブサイトおよび展覧会公式サイト(https://ganjin2021.jp/)をご覧ください。

※入館は各閉館の30分前まで ※夜間開館は実施しません

【観覧料】【名品ギャラリー】<12月19日～2021年3月7日>

一般700円、大学生350円

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。  
\*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

【庭園のみ開館期間】<2021年3月9日～3月25日>

一般300円、大学生150円

\*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上無料、障害者とその介護者1名は無料(要証明)。  
\*キャンパスメンバーズ(含教員)は学生証または教職員証をご提示いただくと、無料となります。

\*有料(一般のみ)にてご入館の方には、庭園ガイド冊子がございます。

【特別展】<2021年3月27日～5月16日>

一般1800円、大学生1200円、高校生700円

\*中学生以下、障害者の方とその介護者1名は無料(要証明)。  
\*大学生・高校生の方は学生証をご提示ください。  
\*その他観覧料の詳細は、当館ウェブサイト、または展覧会公式サイトをご覧ください。

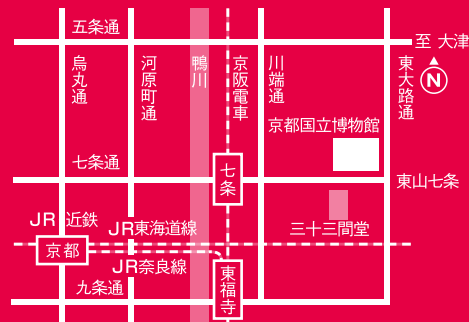
\*特別展期間中、名品ギャラリー(平常展示)は休止となります。

【休館日】月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌火曜日休館)、12月28日～2021年1月1日、3月26日

## アクセス

JR=京都駅下車、市バスD2のりばより206・208号系統、D1のりばより100号系統にて博物館・三十三間堂下車すぐ  
プリンセスラインバス京都駅八条口のりばより京都女子大学前行にて東山七条下車、徒歩1分  
近鉄電車=丹波橋駅下車、京阪電車丹波橋駅から出町柳方面行にて七条駅下車、東へ徒歩7分  
京阪電車=七条駅下車、東へ徒歩7分  
阪急電車=河原町駅下車、京阪電車祇園四条駅から大阪方面行きにて七条駅下車、東へ徒歩7分  
駐車場は有料となっております。ご来館の際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

\*「博物館だより」を郵送ご希望の方は、返信用封筒(角2封筒は120円、長3封筒は94円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館企画室までお申し込みください。



〒605-0931 京都市東山区茶屋町 527  
TEL. 075-525-2473 (テレホンサービス)  
ホームページ <https://www.kyohaku.go.jp/>

発行日 2021年1月1日 デザイン 谷なつ子  
編集・発行 京都国立博物館 印刷 岡村印刷工業株式会社

京都国立博物館  
KYOTO NATIONAL MUSEUM

